短歌雜稿（一）

白木英尾

○美澤光夫氏の文章を讀んで

數日前、本欄で『詩南社歌の詩其の他』と題して美澤光夫氏がプロレタリア派の立場から可成り克明な評論をなされたが、斯ういふ批評も在つてよからう。詩南社詩壇の評として之が適不適は詩といふものに沒常識の私には解らないが、評者の終始眞劍な態度は學ぶべきであると思ふ。吃々と作者のイデオロギーを打診してゐる。日本文に矢鱈にてプロレタリアとの藝術的關聯にまで言及する評者の努力は並大低のことではなかつたらう。私はこの努力に敬服させられた。

文章も苦心斧鑿の痕があつて、所謂評論體をなしてゐるのはいゝ。然しこの所謂評論體果して大衆にアッピールする力を持つてゐるかといふ點に最近多大の疑義が起きてゐる。たとへば美澤氏の文章から引例すると

――それ故に現段階に於ける政治的、經濟的方面に於ける國際的な、國内的な分析等歴史的科學的な成果に立つてなさなければならない。

といふ樣な文體である。これなどは未だいゝ方で中央に於けるプロ派の文章ではまだ〳〵ひどいのがある。――これはわれわれの特殊形態の、それが必然的にわれわれの階級陣營に決定されるものだ――といつた調子で、余ほど勞力を費やさないと判らないのがある。これは勿論マルクスレーニン文獻の直譯調なるのみが原因してゐるので、例の福本イズムでは一時お神輿のやうに振廻して無學者を苦しめたり落胆させたりしたものだ。私も短歌の理論を研究する上に實につまらない勞力を拂つたもので、一時猖獗を極めたプロレタリア短歌に就いての全面を見てからでないと勢ひ邪視偏見の――われわれの階級陣營――をやらないと困つたものだつた。然しこれも福本イズムが完全に清算された今日いつまでも惡弊を踏襲する必要はなく今人氣の中心たる大森義太郎氏などは早くも之に氣付いて實に達意の文章で問題を巧にコナしてゐる。日本文に矢鱈に主辭や接續詞をくつ附けなくても意味は通るのだから況んや勞働者よ、農民諸君よ！とやらかすには早判りのする方が、

氏の歌論には非常に啓蒙され只今も氏の『歌道小見』は座右から離さない。

一概に批評とは言ふけれど、これは非常に難かしいことで、詩なら詩、歌ならば詩其の他の詩作を、それが大人の作るものであれ、子供の作であれ『童謡詩』と呼んで古來からの『童謡』と當然區別すべきものであると信じてゐる。（雜誌『童話』大正十四年十月號、吉江喬松氏）

夕刊

八月十五日發行

（日曜祭日翌日休刊）

定價 一ヶ月金六拾錢 郵便料金五錢
廣告料 一行一回金九拾錢 同一行一ヶ月金一圓
發行所 磐城新聞社
編輯兼印刷人 柏木哲
印刷所 磐城新聞社

短歌

栗原北斗

○性のよき幼な友なり女子は心中したりと新聞に出づ

○戀に生く幼な友なり處女は死して後なも悔ゆるなからん

○日立嶺眞面にみゆる畑中のいちご落れば藥敷きにけり

○春雨のしと〳〵降ればさ庭べに咲けるツヽザは地にたれにける

○新聞の犯人の顔うりふたつ我れにに似てゐて女と笑へり

童謡詩人 島田忠夫論

文學士 加藤輝雄

一

昭和五年一月號の『童謡詩人』誌上に、予は『島田忠夫論』なる一文を草した。當時予は予の畏敬する先輩島田忠夫氏の全貌に觸れむとして、却つて書き盡せぬ憾みがあつた、故に再び稿を起して單に童謡詩人としての島田忠夫氏を描出し、論せんとするものである。

予はさきに『島田忠夫論』に於て『島田忠夫氏は怪奇な存在である』と沒頭して島田氏の性質に言及した。

島田氏は一面處女の如く溫來にして、他面に野豹の如く獰猛である。慶ましき隱者の生活を愛すると同時にかりでなく創作し初めた。

酒脫した市井人の好みあるこれは我々日本の少年詩に情において恐らく何人も及ばぬ程の溫情を知友にも後輩にも示され乍ら一旦峻敏なる氏の神經に觸れるや鋭鋒舌端をついて出づるのである。誰やらが童謡詩壇の大久保彦左工門と稱號をたてまつつたのも、まさに毒舌家島田氏には當て嵌まるのである。如上の素描に據つてすら、彼島田忠夫氏の怪奇な存在を充分に物語るものであるが、更に島田氏の一種の宗教的禪味と哲學的人生觀とは徒らに島田氏を凡俗な詩人輩と隔しない時に奇想天外な行動に出づるとしても、そこには何か古俳人のやうな滋味があり東洋人的なモダンさである。

島田氏の童謡詩人としての出發は大正十一二年頃より、即ち新興日本童謡の最初は西條八十氏門下の逸足であつた。西條八十氏も『蠟人形』（六年九月號）に執筆して『大正十年頃から十二三年へ掛けての所謂新興童謡の全盛期を知つてゐる人ならば、おそらく島田忠夫金子みすゞの名を記憶されてゐるにきちがひないその頃私が雜誌『童話』誌上で擔當してゐた童謡欄で、最も異彩を放つた。まさしく當時の若い童謡詩人中の二個の巨星であつた。島田忠夫君の淳朴な感情と對比して金子みすゞ君は實に日本の女性としては希有な想像力の飛躍を持つてゐた』と云つて居られる。その後の島田氏は專ら吉江喬松博士の指導を受けて勉强を續けたのであつた。所謂『童謡詩』なるものの提唱は喬松博士であつた。『童謡なるものは古來から口傳へ聞き傳へにして來た幼年少年達にとつての共通の詩歌の一種で、以前はそれをただ敎はるとも無く覺えて、少年時に人々が遊びの間などに口ずさんだものである。それが地方々々で多少の相異はあれむかし何人かが作り出したものが口伝的に傳へられて來てゐたのである。近年に如なつて人々はこの童謡をただ古來からのを口ずさむば音、華かな所もまた惡くはない、ドウお見せ』

隱居は可愛い孫の言に釣られて元氣な聲の下からそれを取上げた。

花にふく風につけても世にひろき、惠を四方に匂ふ梅かも。

何心なく朗吟したが、ハッとどきついて見る〳〵顔の色が變つた、そうして忌々しげにお吉を睨みつけた。

『や、それはどうやら古人の歌集にあるやうぢや』

格之助は不審顔

『コレお吉や』

隱居堪まらず机を横に押しのけてにじり出した

『こ、この歌は何だ、まさしく道村朝臣の歌集に』

『ア、モシ〳〵揚脣老、それよりも先づ拙者奴のを御添削下されい、若い方は後ぢや〳〵』

出雲は氣を利かして横合から止めた

『自身讀み上げるでござるいづれも恁うぢや』

隱居は良い機會に差控へた、が、渾身がぶる〳〵と震えてゐる、お吉の顔は夕映の樣、出雲は聲高らかに

『自身讀み上げるでござるいづれも恁うぢや』

隱居は良い機會に差控へた、が、渾身がぶる〳〵と震えてゐる、お吉の顔は夕

初瀬山、へだつる雪も消えはてゝ、梅はさかりと咲き匂ふなり。

お吉はとんでもない失策をしてのけた、詠まうと思へば曲りなりにも、こねられぬことはないのであるが戀人の手前、なまじ拙い腰折をひねくつて愛想をつかされる種を蒔くよりは、と罪のない處女心からひよいと記憶に浮んだ古歌を、然も其の儘に書いて出したのが、人もあらうに賞めてもらうと希つた男の口から無遠慮に素破抜かれて無慘や顔から火の出るやうな思ひをさせられた、あゝ腹が立つ、口惜しい、と言つて男に對して怨めしいと感じた譯ではない、怨まなければならぬ筈なのが、何故か微んね、ぢやお嬢さま、宜しかうございます、今朝御指南方申上げた樣な寸法にしてね滿！。」

『だつて婆や、あんまりだもの……藥罐頭に南瓜面、いやなあ爺さんドッビキビ』

『あらそんな憎まれ口を聞くと罰があたりますよ』

『こちらからあてゝやるわ』

『オホ、手が着けられませ』

『こちらからあてゝやるわた』

『オホ、手が着けられませ微んね、ぢやお嬢さま、宜しかうございます、今朝御指南方申上げた樣な寸法にしてね滿！。」

月夜

松村堯佳

月夜は
すゝき原
青い

穂先は
光つて
ゆれて
夜風は
野道
はつてく

雨

雖霙つて
さびしいお背戸
あめ
あめ
止んどくれ
みようがの花
白い。

社會の今日

○

流し針上げゆく路や露涼し　素秋

まつさをな笠をかぶせた室ランプ、大きな卓子……ときどき見る夢

西村陽吉

△神皇正統記成る（延元四）△始めて種痘を試む（嘉永二）△8月16日埃通商條約調印（昭和五）

講談 お蘭陀お蝶

（108）渡邊默禪作

布施長春畫

『お柳祭してやるぞ』

とばかり眼氣を脫して曇を拭つた、格之助は急に俯いた、一座寂然

『祖父さま、私のも御覽下さいませ、そんな陰氣らしい子』

『お吉は先づ誇つて快活に』

『むゝそうか、歌は七情の發露なり』

『むゝそうか、歌は七情の發露なり』

『だつて婆や、あんまりだもの……藥罐頭に南瓜面、いやなあ爺さんドッビキビ』

『あらそんな憎まれ口を聞くと罰があたりますよ』

『こちらからあてゝやるわた』

『オホ、手が着けられませ』

△三、四〇A 氣象
△四、〇〇A ニュース
△六、〇〇（子供の時間）ラヂオトリック（海山）富士原つとむ…作 七つの星の會
△六、二〇A コドモの新聞 村岡花子
△六、二五A カレント、トピックス ニュートン、エドガース
△六、三〇C 夏期英語講座 河合逸治
△七、〇〇H 俚謡（盆踊）一、仙臺盆踊…仙臺市西木公園 外 二、武鑑鹿踊…宮城縣有賀村三野宮常廣 外 三、ヂャンガラ念佛…平町荒川金雄 外 四、豊年踊…宮城縣民謡團（仙臺市西公園より中繼）
△八、〇〇A 連續講談（朝鮮事變と天津條約）伊藤痴遊
△八、四〇 俚謡（盆踊）一松島甚句 二、相馬二へん返し 三、よいとさ踊 四、澤内甚句 五、鹽釜甚句 六、秋田甚句 官城縣、福島縣、岩手縣各有志（仙臺市西公園より中繼）
△九、三〇A 時報
△九、三一A 滿洲より ニュース 氣象

ラヂオ

……十六日…（火曜）……

仙臺 JOHK

△前六、〇〇A ラヂオ體操
△六、三〇B 家庭教育講座 倉橋惣三
△七、〇〇B エスペラント講座 進藤靜太郎
△九、〇〇A 氣象
△九、一〇 料理献立（盂蘭盆會の精進料理）中村光三
日用品値段
△一〇、三〇A 家庭講座（新らしき舞踊）高田せい子
△正午 A 時報 氣象
△後〇、〇五A 浪花節（曾我物語）菅原千鳥
△〇、四〇A ニュース 氣象
△一、一〇 六、〇九B 運動競技（大朝、東朝主催第十八回全國中等學校優勝野球大會狀況）
△三、四〇A 氣象
△四、〇〇A ニュース
△六、〇〇（子供の時間）ラヂオトリック（海山）富士原つとむ…作 七つの星の會
△六、二〇A コドモの新聞 村岡花子
△六、二五A カレント、トピックス ニュートン、エドガース
△六、三〇C 夏期英語講座 河合逸治
△七、〇〇H 俚謡（盆踊）一、仙臺盆踊…仙臺市西木公園 外 二、武鑑鹿踊…宮城縣有賀村三野宮常廣 外 三、ヂャンガラ念佛…平町荒川金雄 外 四、豊年踊…宮城縣民謡團（仙臺市西公園より中繼）
△八、〇〇A 連續講談（朝鮮事變と天津條約）伊藤痴遊
△八、四〇 俚謡（盆踊）一松島甚句 二、相馬二へん返し 三、よいとさ踊 四、澤内甚句 五、鹽釜甚句 六、秋田甚句 官城縣、福島縣、岩手縣各有志（仙臺市西公園より中繼）
△九、三〇A 時報
△九、三一A 滿洲より ニュース 氣象

度量衡。計量器。
吸入用酸素。
酸素吸入器。
關内藥局
電話四〇番

診療時間
夜間
内科 二十二指腸虫病 專門
外科 皮膚病 婦人病 專門
松村腦病科醫院
（平南町電話一〇七番）

耳鼻、咽喉科、氣管、食道科、專門
平町南町 增田耳鼻咽喉科醫院（元眞木辯護士跡）
（入院隨意）
電話四八二番

◎斷然五割安決行◎
何が梅月をそうさせたか？
それは時代の要求である!!!
先づ此の値段を御覽下さい。
冷ビール（をとほし付）廿五錢
生ビール 大ジョッキ十錢
上酒 大カップ 一本 八錢
ウイスキー 一杯 十錢
サイダー 一本 二錢
うどんそば 十錢
冷しうどん 十錢
カレーうどん 七錢
冷むぎ 十錢
カレーライス 十五錢
天どん 十錢
みつ豆、氷水一切 十五錢
其他何品によらず市價の五割安
平驛前通り（新藤屋前）
梅月食堂

季節御料理
柳川 一人前 金二十五錢ヨリ
うなぎ井 金三十五錢
蒲燒 金五十錢
金五十錢ヨリ
右大々勉强出前迅速
大蒲燒料理 鳥壽折詰司
仕出し部
田町 魚榮
電話四二四番

川魚御料理
大蒲燒（一人前）四十錢
うなぎ井 二十五錢
ざぜう蒲燒（一人前）三十錢
ざぜう井 二十五錢
柳川 十五錢
ヒラキうなぎ 百匁 二十五錢より
ヒラキどぜう 百匁 二十錢より
配達迅速
相馬屋
四丁目川岸通り（電話二六一番）

金融
各生命保險會社
保險證書ニ即時御融通致シマス
◎債權御取立ヲ御依賴ニ應ジマス。
◎債務ノ整理御依賴ニ應ジマス。
平町南町廿三夜側
匿名組合 寶商事社
伊東

内科 外科 花柳病 入院隨意 自炊の便あり
平町田町赤心堂病院跡（電話四七五番）
安齊外科醫院

月曜論壇

本末を惑る罔れ

常磐地方の小炭鑛代表數十名が、當面の不況打開は一に鐵道運賃の値下げによつてのみ解決が出來ると云ふ見解の下に牢乎拔くべからざる結束を固め、中央當路に之れが實現の猛運動を試みた結果當局に於ても最遂一たび別れてまた何れの近濟く幾分之に聽從の色を示し來つたのは炭況が直に一般景氣の大宗をなす土地柄丈けに誠に慶福すべき事である、由來石炭の鐵道運賃は去る大正十年中最も高騰せし引上げを斷行して以來、非常に低廉なる海運賃との間に甚しき不均衡を生じ、之れが過重の負擔は最極限度に行はれつつある生産費の低減等も殆ど何等の功を奏せざる迄に深刻なるものあつて今後尚ほ現狀を以て推移する時は地方の大小炭鑛は必然的に自滅の已む無きに立ち至るので鈴木代議士が茨城縣の中井川代議士と合流して山崎茨城、比佐、佐藤本郡選出各代議士と共に過ぐる臨時議會に右値下げの建議案を提出し詳細その提案理由を說明したのであつて該問題の實現運動に就ては鈴木代議士こそ眞に第一線の立役者として其の功績永久に沒すべからざるものあるに拘らず今回各炭鑛代表の上京運動に就ては該問題に關し寧ろ傍系の代議士と謀り、當の鈴木代議士とは其間些か氣脈を缺いたかの觀無きに非る一事は、決して問題を好轉せしむる所以で無いと云ふ見地から、その前後の策戰に關し頗る遺憾に堪へざるものあるのみならず、上京委員中眞實なる炭鑛關係者以外根本から立場を異にせる人物を介在したるが如き運動それ自体の眞摯性を冒瀆するものとして吾人の遽に首肯し難い點がないではない、要之。問題は事實を基準として之れが最善を期すべきであつて人の爲に問題を從屬的立場に置くは飛んでも無い見當違ひと謂はねばならない。觀じ來れば今回の措置は少くとも冠履顚倒の甚しきものとして或ない、白家窩棚に布いた砲る種の非難は蓋し免れ難い兵陣地から敵線に砲彈を浴ものがある。せて見たがこれにも應射し

首腦部が悉皆變つて 事務の系統を失はぬか

問題輻湊の舊盆に際會して 平署の機能を氣遣ふ民衆

會ふや柳因別るるや絮果萍に入つて人出の副産たる色々なる事件の發生を豫想さる折柄、寸刻も早く後任者が落ち着いて眞の警察機能を發揮し民心を安んぜしめて貰ひ度いと大多數の念願であるらしい

總動員で お盆の警戒

平署の陣容整ふ

平署では例年通り盆三日間の大雜沓を見越し管内巡査を總動員して不良の跋扈其他を警戒し一面雜沓取締の遺漏無きを期する事となつたが今年も之の期間中午後六時から十時迄自動車の運轉區間を左記の通り制限した

△四倉、平間—立町發電所入口前　△豊間、江名小名濱方面—片倉製糸工場前　△湯本方面—尼子橋　△好間方面—公園下踏切

土肥課長を迎へて 急遽起工の陳情

鎌田橋上に待ち受ける

町長其他一行

土肥縣土木課長は今十五日猪狩庄平、柴田德二諸氏等夕刻自動車で四倉方面から來平するので伏見町長、酒井助役、小林土木監督所長萩原縣議及び諸橋久太郎、新川改修等に就て詳細に說明した

滿洲行

藤田中尉 第一信

ハルビン郊外の戰跡（續）

◇深く陣地を取つて堅く秘匿してゐた陣地偵察のため幾組かの將校斥候を派遣したが敵情が思ふ樣に擧らない、車体機關銃をして敵前を横行濶歩せしめたが彼はこれにも應じなかつた。彼はこうして最近距離迄我軍を接近せしめて一擧に擊破する戰術であつたのだらう。

◇近距離に入つてからの彼の射擊は猛威を極めた迫擊砲の使用等は殊に適切であつた、支那もさるもの、いつの間にか勇敢な日本軍の戰術をそのまゝ眞似る樣になつたのだ、護路軍記念碑の北方に無名部落がある其處の家屋の一つには米國旗が高く掲揚されてあつた。支那軍には面白い風習がある、それは友軍の戰術をそのまゝ眞似る樣なかつた。彼はこうして最帶に陣地をもつて居ると云ふ事は明かに

◇判つて居た のだが米國々旗の手前どうしても砲陣に落下すると十五六人の擊することが出來なかつた敵兵が空中に舞ひ上つた。支那一流のこんな奸策も用ひたのだ、二月四日晝間の温度は零下二十度で夜の十時頃には早くも二十四度に下降した。而して前線の警に見えた、突擊して敵陣を奪取したが敵屍三四百はとひだのだ、二月四日晝間の温度は零下二十度で夜の十時頃には早くも二十四度に下降した。而して前線の警に見えた、突擊して敵陣を奪取したが敵屍三四百はとぐつて戰後廿有七年再び皇軍來つてこの地に錦を飾す兵氏亦地下に欣喜又亂舞することであらう、思ひ出の手は、指は悉く凍傷にかゝつたのだ。支那軍には面白い風習がある、それは友軍の死體はその

◇退却に際し てまでもば勇敢だ、死体も戰傷者も出來得る限り收容する事で敵手に委ねまじと云ふ戰友ある。我軍の砲彈が見事敵の思ひやりも亦敬すべきだ然し雌雄を決すべき振天動地の戰鬪經過中にこうした振舞は著しく火線を弱め戰鬪力を滅殺する勝敗吾れに何かあらんと云ふ超爭鬪心理からなら自ら別だが——

◇死体を收容 し負傷者を後送したのだ勇敢と言へ

◇私は程近 き沖、横川兩志士に深き默禱を捧げて感慨轉無量恭しく其碑文を凝視すればただ筆太に『志士之碑』とあり兩氏の英魂永く止つて北邊收益の守護神となつて居た、歴史は廻ぐつて戰後廿有七年再び皇軍來つてこの地に錦を飾す兩氏亦地下に欣喜又亂舞することであらう、思ひ出のまに〳〵こゝに兩氏の最後の悲壯なる遺言を摘錄する

◇退却に際し てまでもば勇敢だ、死体も戰傷者も出來得る限り收容する事で敵手に委ねまじと云ふ戰友ある。我軍の砲彈が見事敵の思ひやりも亦敬すべきだ然し雌雄を決すべき振天動地の戰鬪經過中にこうした振舞は著しく火線を弱め戰鬪力を滅殺する勝敗吾れに何かあらんと云ふ超爭鬪心理からなら自ら別だが——

◇死体を收容 し負傷者を後送したのだ勇敢と言へ

◇私は程近 き沖、横川兩志士に深き默禱を捧げて感慨轉無量恭しく其碑文を凝視すればただ筆太に『志士之碑』とあり兩氏の英魂永く止つて北邊收益の守護神となつて居た、歴史は廻ぐつて戰後廿有七年再び皇軍來つてこの地に錦を飾す兩氏亦地下に欣喜又亂舞することであらう、思ひ出のまに〳〵こゝに兩氏の最後の悲壯なる遺言を摘錄する

上水道擴張工事竣功式

知事以下四百名を招き 愈々近々中盛大に擧行

平上水道擴張工事竣功式は伏見町長及び山下課長の報三十日擧行の豫定であつた告、來賓祝辭の順で行はれが縣會終了後に延期されたるが招待者は赤木知事以下尚當日の式次は水神社の遷宮式に次いで奉告祭に入り

星川炭鑛も休山

從業員家族七十名 糊口に窮して復活哀願

川部村小川星川炭鑛（元廣部）は營業不振の爲め去十日突如休山を發表したので從業員家族七十餘名は其の日からハタと糊口に窮し目下岩手縣黑澤尻に居住の鑛主遠藤宗一郎氏に對し從業拂つてゐる

勿來でキャンプ祭

須賀川兒童引上ぐ

勿來海岸にキャンプ生活中の須賀川小學校職員等と共に合同キャンプ祭を生徒三十五名は十三日歸町催し兩校生徒の獨唱、其の他餘興、勿來關守根本一男十二日來交渉を重ねてゐるが時節柄到底復舊の見込無き成ヤエ（九）は今春中近親結婚を嫌つて猫自殺を計り其後も再三家出したので伯父時から正木講師指導で盆の員鈴木正介方に預けられたが九日夜情夫と家出して平町三丁目クロネコの女給に住み込んだので伯父から平署に說諭方を願ひいで昨十四日同人を呼び出し嚴重向後を戒め歸宅させた

傷けたに氣付かず 飛鳥の如く走り去る

植田で押へた怪自動車

神谷村大字鹽農留治長女野前道路で遊戯中四倉方面から國有林炭材拂下價格引下等の陳情もあるので二十四日平、二十日浪江・二十六日富岡の三ヶ所に於て行はれる立木公賣には大体豫定價格を以て商人と直接交渉をなし何割かの引下げを行ふべく考慮中であるが官行製炭の地方小賣販賣は目

小賣高制限

官行製炭方針

同署では濱三郡木炭業組合

築港費の 財源に苦慮

四倉町の惱み

四倉町漁港の地元負擔額は既報の如く縣と町の折半に決定したので來月三日起工式を擧げ認可と同時に着手する事になつたが從來の實

子供專用の プール新設

磐炭從業員の奉仕

内郷村字峯根、高坂、町田居住磐炭從業員三百餘名は過般來峯根地内に十六歳以下少年少女專用のプールを設くべく工事中の處此程愈々完成したので勞務課では關係者の表彰方を考究中であると

懸賞盆踊り

一心會主催で 明十六日夜賑ふ

名物の盆踊りは愈々今十五日の夜十四日より始められ明十六日夜に至つて盆氣分のクライマックスに達する

救濟事業案提出

平營林署で調査中

平營林署では來臨時議會に提出すべき三ヶ年計劃救濟事業案に就て近く其の資料を提出する筈であるが各村官行造林二千町歩の殘餘五年間事業千六百町歩（一萬圓）を二年乃至三年に短縮し大野、大久兩村の防砂工事、各山村の林道、歩道並豫算關係で遷延した事業約三萬圓等合計七萬圓を計上する筈であるが今年は三萬圓位割り當られる模樣であると

川前林道工事着手

昨年米作減收救濟資金として交附された七百圓で今月中最も疲弊してゐる川前村の林道工事を起す事となつたが延人員千餘名で尚ほ同村に對しては毎年八千圓程の造林工事を行ひつゝある處來月一日迄に送金する旨通知あつたので檢事局に延期方を願ひ出で許可された

指導標建設

管内山林中に於て道に迷ひ死亡す

る者が年々三名程あるので此程管内一圓に道標百數本を立てた

景勝仁井田浦に休憩所

先月中百圓の工費を投

じ仁井田浦三本松（大浦村大字下仁井田字須賀向）の便を計り二十名收容の板張休憩所を設置したが利用者が頗る多いと

三日も絶食

失業者平署に縋る

平町新川町生れ日雇田山五郎（二九）は水戸市で失業し前費は何れも一圓五十錢であ記郷里に辿り着いたが懷中無一物で三日も絶食してゐ

監視を遁れて カフエー戰線進出

自殺損ねのフラッパー

平窪村下平窪横山庄助姪金成ヤエ（九）は今春中近親結婚を嫌つて猫自殺を計り其後も再三家出したので伯父時から正木講師指導で盆の員鈴木正介方に預けられたが九日夜情夫と家出して平町三丁目クロネコの女給に住み込んだので伯父から平署に說諭方を願ひいで昨十四日同人を呼び出し嚴重向後を戒め歸宅させた

ラヂオ

毎朝出席多數

平第一第三校の ラヂオ體操は毎朝午前六時當直各訓導指導の下に行つてゐるが一年生の出席も多く第一平第家具類を破懷し今十五日被害者から平署へ告訴され會であると

第一校召集成績　平第一第二小學校では今十五日招集をなしたが第一校の出席一〇七名、病氣三〇、旅行九三、不明三一九、合計四四二名の欠席であつた

平女青生花講習　平女子青年團では今十五日午前八時から正木講師指導で盆の生花講習をなしたが出席百名餘りで盛會だつた

植田町親睦會　十二日同町若松屋旅館に秋期總會を開き會務報告不況對策其の他に就き打合せをなした

留守宅で暴れる　内郷村高坂立野坑夫菅野房江（四五）は些細な事から十一日午後八時頃同字豆腐屋村上今朝吉の留守宅に至り手當り次第家具類を破懷し今十五日被害者から平署へ告訴され

役場へ救濟方哀願　平町紺屋町三鐵工長次郎實兄坑夫門脇政太郎（四五）は昨年十一月二十日落磐で右足を傷

治一週間の打撲裂傷を負はせた儘それと氣付かず疾走過ぎたので平署で手配の田福治（三）と判明した

平署へ搜索願四件

伊達郡保原町七丁目六菓子製造業吉兵衛妻金澤カウ（四二）は七日朝▽東京市淺草區吉野町一五八昭妻岡田勝江（二五）は去月二十三日鈴木安定と自稱する四十五六才の男に誘拐され▽入遠野村入遠野村貧困者救濟資金として平町は七日乳母として雇はれ先の同字中内高木三代吉長女タカ子（三）を連れた儘石川郡生れの情夫關本留吉と▽飯野村北白土神谷時雄（二九）は十二日實父時彌と激論し家出し何れも平町に潜入した形跡あるとて身内から夫々平署に搜索方を願出た

植田署長發着

失業者の送別會

植田署長は明十六日午後四時より料亭みどりに於て新署長の歡迎會を開催するが會費は何れも一圓五十錢であ

奇特な匿名氏

また役場へ金一封

今十五日奇特な匿名氏から平町役場へ五圓の送金あつた

平署へ搜索願四件

伊達郡保原町七丁目六菓子製造業吉兵衛妻金澤カウ（四二）は七日朝▽東京市淺草區吉野町一五八昭妻岡田勝江（二五）は去月二十三日鈴木安定と自稱する四十五六才の男に誘拐され▽入遠野村入遠野村貧困者救濟資金として平町は七日乳母として雇はれ先の同字中内高木三代吉長女タカ子（三）を連れた儘石川郡生れの情夫關本留吉と▽飯野村北白土神谷時雄（二九）前七時四十四分植田驛發で十二日實父時彌と激論し赴任し、後任署長柴田鶴作は十七日午後二時四十四分着で着任するが同町では今十五日午後三時より同町山田屋旅館に於て前署長の送別會を十七日午後四時より料亭みどりに於て新署長の歡迎會を開催するが會費は何れも一圓五十錢であ

るからと昨十四日平署へ一飯の給與方を願ひ出た

奇特な匿名氏

また役場へ金一封

今十五日奇特な匿名氏から平町役場へ五圓の送金あつた

植田署長發着

失業者の送別會

植田署長は明十六日午後四時より料亭みどりに於て新署長の歡迎會を開催するが會費は何れも一圓五十錢であ

現在弟の世話になつて居るが最近弟も失職して家計困難な處から今十五日平町役場へ救濟方を願ひ出た

諸判定應需
東京市本郷區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部　神誠館

▲一白の人　失敗する殘感蔵じて何事も手出しならぬ日▲二黑の人氣を緩めず信念ある所に直進するが大發展▲三碧の人　意志堅固なれば盆々榮績の基礎は固まる日▲四綠の人　無策の中にも有利に展開すべき至極幸運日▲五黃の人けつ起せる上は倒れで後止むの元氣を失ふな▲六白の人　事業上の損失破財を生じ易き日又病厄注意▲七赤の人　人心離散して同情を失ふ事あり又輕動失敗▲八白の人窮するも愛ふ可らず他の援助を受け打開す▲九紫の人　急ぎ着手せずとも準備の樹策に適當なる日

舊七月十五日　己酉　火曜
八月十六日　先負　除
宿　六十日

入院隨意（自炊の便あり）
外科 X光線 專門 平南町 病室完備
上田醫院（電話一二九）

▲興信所ノ業務▼
一、銀行會社商工業者資産内容調査
一、結婚緣組調査、人事一般調査
一、一般財界事情通信
◎全國各地海外在住者ノ調査引受ケマス。
◎料金僅少、敏速、秘密嚴守
株式會社日本興信所東京大阪各興信所聯絡
平町字田町五十三番地
銀行同盟會公認　商業興信所
◎當所代理部は債權取立讓受債務整理引受マス

謹啓陳者今回不肖の進退に關し勃發せる事件については各位の甚大なる御同情と御聲援を忝し奉深謝候輿論の趨く處つひに一部の專斷を許さず事圓滿に解決いたし候就ては今後鋭意病院の發展と地方の醫事衛生事業に盡瘁いたし度更に一層の御後援を賜はらん事を奉懇願候

八月十五日
磐城共濟病院長
醫學博士　石山謙郎

吉田眼科病院
平町紺屋町